

拠点名称：“健歩快働”をまちごと科学するイノベーティブ新湘南共創拠点

代表機関	横浜国立大学	プロジェクトリーダー	下野 誠通 横浜国立大学 学長補佐（研究・医工連携担当）、総合学術高等研究院次世代ヘルステクノロジー研究センター・センター長、工学研究院・准教授
幹事自治体	神奈川県	幹事機関	横浜市立大学 アイパークインスティチュート株式会社、医療法人徳洲会湘南鎌倉総合病院
参画機関	神奈川県立保健福祉大学、慶應義塾大学、東北大学、神奈川県立産業技術総合研究所 シャープ株式会社、シチズン時計株式会社、コニカミノルタ株式会社、UNTRACKED株式会社、株式会社ワコム、株式会社アイネット、湘南ロボケアセンター株式会社、CYBERDYNE株式会社、シックホールディングス株式会社、特定非営利活動法人地域健康プラン、株式会社ケイエスピー、株式会社横浜銀行、株式会社NERV、藤沢市、鎌倉市		

プロジェクトの概要

市民の健康課題と将来のまちづくりの声を受け、寝たきり・歩行困難の3大要因を対象に“日常生活中の人の行為・動作”(ADL : Activities of Daily Living)データに着眼した独創的なヘルスケア技術の研究開発を行う。これにより、高齢者になっても健やかに歩くことができ、快活に働き続けることができるというコンセプト「健歩快働」を実現する。このため、横浜国立大学は新湘南共創キャンパスを創設し、住民の生活空間での実践型教育研究が可能な実証フィールドを整備する。産学公医民の多様な関係者との連携・共創で、フィールドを活用した研究開発・地域人材育成・ベンチャー創出・社会実装等を展開し、新湘南に新たなイノベーション・エコシステムを形成する。

【社会課題】
超高齢化の進展



【地域課題】
高齢者の著しい増加
乏しい医療・介護資源
(都道府県ワースト1位)



高齢化に伴う要介護リスク
(歩行困難・寝たきり)

要介護の3大要因

- ① 転倒・フレイル
- ② 認知症
- ③ 脳血管疾患

本拠点活動とアウトプット

実証フィールドを活用した
市民参加型の産学公医連携活動
市民対話・リビングラボ・実証実験
シンポジウム・教育講座

知

工学、情報学、都市科学、社会科学、教育学の本学の強みと、医系他大学等の強みを結集し地域の「知の統合」を実現

企業群にフィールド価値を提供し、市民生活の中の行為・動作に関わる新たなヘルスケアデータ技術を創発

人

新湘南で授業科目「地域課題実習」を実践的な教育プログラムとして開始

湘南アイパーク、NERV等との連携で
アントレプレナー・コーディネータを育成

附属小中を中心STEAM教育を展開

財

湘南アイパーク等と連携し、ディープテックベンチャーの起業環境を構築

ケイエスピー、横浜銀行等と連携し、地域のベンチャー支援ファンド組成

大学発ベンチャー起業、企業誘致の実現

本拠点で開発研究を行うコアテクノロジー



歩行、起居、昇降、書画、排泄、服薬、スポーツなど
日常生活行為 (ADL) データによるヘルスケア診断

新しいまちづくりと連動した実証フィールド展開

<既存市街地>
湘南鎌倉総合病院等
地域連携による
教育研究スポット



第一段階（育成型）

<宿舎跡地（1万m²）資産活用>
例)老人保健施設、保育施設、
高齢者住宅、スポーツ施設
実践型教育研究フィールド



第二段階（本格型）

<新たなまちづくり>
100haの新たなまち全体を
教育研究のフィールドに
「まちごとキャンパス」



第三段階（達成目標）